

新宿区スポーツ環境会議での主なご意見と区の対応

資料4

通し No	開催 年月	意見要旨	区の対応
1	R5 4月	スポーツをするうえでの安全面についてはどのように考えているか。	安全面は非常に重要と考えています。 スポーツ環境整備方針では、施策1「多様な利用者に配慮した施設の機能充実」が該当します。区のスポーツ施設では、毎年必要な整備を行っており、特に、安全に関わる部分については優先度を高くしています。 今後改定するスポーツ環境整備方針の中でも、施設及び活動中の安全についても対応していきます。
2	R5 4月	校庭や体育館でスポーツ大会を実施するが、これから夏の時期になると、熱中症という問題が出てくる。どのぐらいの気温までなら安全な状況なのかというのは、おそらく各団体が自己判断でやっていると思う。これについてはガイドラインなり基本方針を新宿区として出していただくことは難しいか。	新宿区のガイドラインというよりも日本スポーツ協会が出しているガイドライン沿った運営をしていただければと思います。
3	R5 4月	誰もが使いやすい施設の整備・充実について、私立の中学校は、テニスコートが10面あり、施設が充実していた。現在、区立中学校は、レガス新宿で一般区民に時間外や夜間に貸し出しをしているが、そういった私立の豊富な資源についても、区民に解放していただくと、活動の場が広がるのではないかと思う。	区有施設には限りがあるため、区立の学校施設を活用するほか、上智大学の真田堀グラウンドや都立山吹高校のプールの貸し出しがあります。 都心部では、学校施設は非常に重要な施設であるため、学校施設を使用しない時間帯の活用については、協議、検討していきます。
4	R5 4月	地域スポーツ文化協議会は、今後どういう形を目指しているのかを教えてください。	地域スポーツ文化協議会については、中学校区を中心に活動されています。運営は新宿未来創造財団を通して補助金という形で支援をしています。 引き続き、地域スポーツ文化協議会及び新宿未来創造財団と連携しながら地域でのスポーツ活動を支援してまいります。
5	R6 1月	「誰とスポーツをやるか」という質問については、前回調査時より、「一人でやる」という回答が増えた。10年前と比較し、時代が大きく変化してきているということの表れなのかもしれない。散歩やウォーキングなどは一人でやることが多いと思うが、今後、スポーツ文化を醸成していくことを考えると、誰かとスポーツをすることにより、ソーシャルキャピタルに繋がっていくと良いと思う。 調査結果では、「家族や友人の誘い」がスポーツを始めるきっかけになるというデータもあったので、この調査結果を活かして、取組を考えられていければ良いと考える。	気軽に身近な場所で取り組める運動として、散歩やウォーキング、筋力トレーニングなどが多くなっており、そのような運動に取り組める環境づくりを進めていきます。 また、スポーツコミュニティを推進していくためにも、調査結果にあるとおり、「家族や友人の誘い」は重要であると認識しています。今後、どのような取組ができるか研究、検討していきます。

新宿区スポーツ環境会議での主なご意見と区の対応

資料4

通し No	開催 年月	意見要旨	区の対応
6	R6 1月	高齢者がスポーツを楽しめる場や機会の創出とあるが、残念ながら高齢者は非常に活動範囲が狭い。そのため、誰でもスポーツを楽しめるような環境をどうやって広げることができるのか。今の周知方法は町会の掲示板しかなく、機会を作ったとしても広めようがない。 このような状況で、前回グラウンドゴルフと輪投げをやった際は、輪投げだけで300人ぐらい集まったので、やりたい人はいるのだと思う。ただ、どのように情報を出して、どのようにして高齢者を引き込むかが私どもの一番の大きな課題。現状として、グラウンドゴルフをやる人はグラウンドゴルフしかやらない。輪投げをやる人は輪投げしかやらない。そのため、輪投げもグラウンドゴルフもボッチャも楽しめるように高齢者にどうやって広めるか。これができないと会員がどんどん減ってしまうため、悩んでいるところである。	区や新宿未来創造財団、スポーツ施設でも様々な事業・イベントを実施していますが、情報の効果的・効率的な周知方法については課題があると考えているため、今後とも検討していきます。 高齢者への情報提供については、福祉部と連携して取り組んでまいります。
7	R6 1月	良い事業があっても、どうやって周知できるかというのが一番の課題だと思っている。この課題が少しでも前進できればと思う。	
8	R6 1月	新規で基本施策3に、障害者スポーツに特化した項目を設けていただいたのは、とてもありがたいことだと思っている。一方で、どうしても「パラスポーツ」というと一般にパラリンピックのイメージがあり、特に、車いすバスケットや車いすラグビーなど、個人として、その競技をやりたい人、できる人がやっているようなスポーツを指しているイメージがある。正直なところ、特別支援学校に通う子どもたちは、体育の授業で車いすバスケットやラグビー、バレーボールも、ゴールボールもやらない。パラスポーツという括りになっていないスポーツもたくさんあるので、そういった施策の中に、小さな取組でも拾い上げられるような形で作っていただきたい。特別支援学校の子どもたちが学校を卒業した後でも、どんな障害があったとしても、気軽にスポーツをやめずに継続して行くことができる環境が作れるような施策にしていだけたらと思う。	特別支援学校を卒業した子どもたちへの運動の機会について、令和6年度に、障害のある方が気軽に参加できる運動教室を提供したいと考えています。 なお、本方針では、いわゆる競技スポーツだけでなく、誰でも気軽にできる運動やニュースポーツなども対象にしています。今後も、障害者がスポーツを楽しめる場や機会の創出のため、障害者福祉課とも連携して取り組んでまいります。

新宿区スポーツ環境会議での主なご意見と区の対応

資料4

通し No	開催 年月	意見要旨	区の対応
9	R6 1月	基本施策1に、施設機能の充実とあるが、現在、新宿区の屋外運動施設で屋根付きの施設がない。夏の暑さは尋常ではなく、ゲートボールされている高齢者の方と話したことがあるが、暑すぎて朝の9時ぐらいいまでか、夜しかできない。 また、夜は暗くて見えないため、スポーツができないという話を伺ったこともある。実際、私も屋外でモルックをやっているが、屋外でスポーツができる場所があっても、今後この夏の暑さが続くと、夏に屋外でスポーツをしたい方のニーズを満たすのはすごく難しいと感じた。雪深い地方には、ゲートボール場自体に屋根があって、雪がある季節でもできる施設もあるようである。今後の夏のスポーツを長い目で見たときに、屋外でもスポーツができる環境整備に対して、現状の取組があればお聞きたい。	現在実施している暑さ対策としては、暑さ指数を図る計測器を各屋外施設に設置し、一定の基準を超えたときには、指定管理者が注意喚起しています。 屋外施設への屋根の設置については、建築基準法上の問題や、高さの関係から競技が限定される可能性があるため、屋根の設置は困難です。
10	R6 1月	ゲートボール場のあるいきいき広場など、試しにどこか一か所でもいいので、今後の暑さ対策として考えていただきたい。せっかく良い施設があっても、夏は暑いので一定基準の温度を超えたら使えなくなってしまうのでは、夏にスポーツができる機会が狭められることになってしまう。これからも東京はとても暑い夏になっていく中で、暑さ対策になるスポーツ環境整備についても方向性として考えていただけたら良いと思っている。	他自治体の暑さ対策に関する取組については、研究していきたいと思います。
11	R6 1月	今中学生の子どもたちは、体を動かすよりは、ゲームの方に向かっていく子が多い。 また、家でオンラインゲームで友達と繋がるので、特に体を動かす必要がない状況が増えている。 一方で、個人での運動で言えば、例えばゲームの合間とかでも気分転換に近くの公園でトレーニングをやってみようと思うような、また、18歳以上の区民の方でも気軽に体を動かせるような環境づくりを取り組んでいただきたいと思う。	身近な運動やスポーツの場として、公園は重要な役割を果たしているため、今後も公園の魅力向上に努めてまいります。
12	R6 1月	「誰もがスポーツを楽しめる機会の充実」とあるが、どのようなスポーツを誰でも楽しめるスポーツと考えているか。	「誰もが気軽にできるスポーツ」については、スポーツ環境整備方針の中では、いわゆる競技スポーツだけではなく、気軽に体を動かすレクリエーションやニュースポートと言われているものも含まれます。 また、デジタル技術を活用して、移動もなく、自宅で体を動かすことも一つのスポーツの形だと考えています。いわゆる健康づくりや、遊びというような視点、またデジタル技術等々も活用していけたらと思っています。

新宿区スポーツ環境会議での主なご意見と区の対応

資料4

通し No	開催 年月	意見要旨	区の対応
13	R6 1月	スポーツをしていない人に、始めるきっかけを作るためには、今、実際にスポーツをやっている人たちがどのようなきっかけでスポーツを始めたのかを聞いたうえで、どんなスポーツを広めるのか検討を進めた方が良いと思う。	今回調査では「運動やスポーツを行っている主な理由」について、「健康や体力の保持・増進のため」が最も多く、次いで、「気分転換・ストレス解消」が続いています。運動やスポーツがもたらす心身への好影響について、スポーツの推進に際しては健康部と連携しながら周知していきたいと考えています。
14	R6 1月	パラスポーツについて、「パラスポーツ・レクリエーションひろば」というものを行っているが、これは一つの会場でいろんなスポーツ、ポッチャ、ラダーゲッター、体操、クラフトなどができるイベントである。1つの種目しかできないと、例えば、ポッチャしかないなら私は行かないとか、それは苦手だからできないとなってしまう。でも、一つの体育館の中で、ポッチャも輪投げもクラフトもある。体を動かすのが嫌だったらダンスを見ているだけでも良い。そういった大きな会場ではなくても、体育館の中でブースを分けて、いろんな種目をやりながらきっかけ作りをしてあげるのも良いのではないかと思う。	いろんな種目を体験できる機会については、新宿未来創造財団が実施している「スポレク」などがありますが、そういったイベントの中で自分に合うもの、楽しめるものを探していただければと思います。
15	R6 1月	「運動やスポーツの指導について」で、「求める指導者」としては「運動やスポーツの楽しみ方や興味関心がわくような指導ができる人」が子育て世代保護者では8割となっているが、私自身も同じような意見を持っている。この結果について、今後どのようなことを考えて進めていかお聞きしたい。	具体的な施策への反映については、これから検討していきますが、指導者に向けた研修の実施であるとか、指導者同士の情報共有などを通じて、指導者の資質向上につなげていく必要があると思います。 また、区のスポーツ協会の各競技団体の方に、働きかけをさせていただき、指導者の資質向上に向けた取組と一緒に考えていきたいと思っています。
16	R6 1月	「新宿にゆかりのあるアスリートやチームとの連携強化」とあるが、企業もたくさんあると思う。そういう人たちの力をどんどん借りて、オール新宿でやると良いのではないか。日常的に運動習慣を作ったり、体を動かす機会を作る取組をやっているという企業もあれば、アスリートの支援や、パラスポーツの支援をしている企業など、自分の会社はスポーツを支援していますという企業はたくさんある。アスリートとチームだけに限らず、このようなたくさんの民間の力を取り込んで行けばさらに良いのではないかと思う。	区・区民・企業など、区に関わる様々な人や団体の連携・協働については、地域コミュニティの創出・活性化のための重要施策と考えています。具体的な取組については今後、検討していきます。